

活動レポート

道北技術士会

文責：道北技術士会幹事 富樫 巖

第 9 回現地研修会 活動報告

■ はじめに

道北技術士会では、「上川南部における地域資源と観光振興」をテーマに掲げ、2010 年(平成 22 年)9 月 3 日に現地研修会を実施しました(17 名参加)。残暑厳しい日が続いていますが、当日は雨となったことで久々に涼しい道北の一日でした。研修先は、地方独立行政法人・林産試験場(旭川市)、就実の丘(同)、千代田ファーム(美瑛町)、土の博物館・土の館(上富良野町)、ふらのワイン工場(富良野市)、およびカンパーナ六花亭(同)の 6 箇所です。以下に本研修の様子を写真と共に紹介します。

■ 北海道立総合研究機構「林産試験場」

1950 年(平成 25 年)に道内木材産業の技術的な支援を行う道立試験研究機関として開設され、半世紀を経て現在に至っています。9 時 20 分から 10 時 45 分までの 1 時間余りに渡り、企業支援部の石河周平氏による林産試験場の研究内容と成果のプレゼン、試験研究現場の見学案内・成果品の解説を頂きました。

地域で生産される木材(カラマツ、トドマツなど)を住宅部材として利用する木材加工技術(製材・乾燥・ボード類生産・構造材の性能評価など)、ヤナギなどの早生樹からバイオエタノールを生産するための基礎的技術、食用きのこの品種開発など多岐にわたる分野を手がける試験研究機関であることを認識しました。そして、まだ実用化至っていないものの地域産業界に技術移転可能な成果が、正面の玄関ロビーに数多く展示 PR されていることにも驚きました。

林産試験場の敷地内には「木と暮らしの情報館」があり、全道の木材加工企業などが生産・販売してい

る小物(写真参照：木の昆虫)から建具類、内装材・構造材が展示されており、興味ある視察・見学が予約なでも対応可能となっています。



林産試験場内の製材工場の見学



集成材と鉄を組み合わせた次世代型ガードレール



太陽熱を利用する環境配慮型の木材乾燥装置



木の昆虫(左)や木製車イスなど(右)

次に、旭川市内の隠れた名所とささやかれる就実の丘をバスの車窓から見学し、雨の中を美瑛町へと向かいました。

■ 千代田ファーム (ファームレストラン千代田併設)

11 時 30 から 1 時間に渡って千代田ファーム代表取締役社長の高橋洋美氏から、同社ブランドの「美瑛牛」の肉牛飼育方法のこだわりを解説して頂きました。特徴的な工夫点は、餌に日本酒の酒粕を混合すること、アンモニア臭の少ない清潔な牧場作り(牛にもやさしい環境)にあることを学びました。その後、参加者全員で牛肉を鉄板焼で頂戴しましたが、一口以上違う美味しさを実感しました。なお、流通は通販に加え、首都圏が中心の出荷とのことでした。



高橋洋美氏(奥)の畜産哲学に聞き入る参加者

■ 土の博物館「土の館」

上富良野町の国道 273 号に線沿いに 1992 年(平成 4 年)に開館し、2004 年(平成 16 年)に北海道遺産に指定された土の館は、北海道の農地土壌を解説・展示する土の博物館であり、農機具プラウとトラクターの産業資料館でした。13:00 から 1 時間以上に渡り、北海道観光マイスターの小島盛作氏(観光ボランティア)から、上富良野町で農機具開に尽力したスガノ農機(株)創始者・菅野豊治の業績の解説、および同館の農耕の歴史コーナー・土づくりコーナー・土地改良コーナー・トラクター博物館の見学案内を頂きました。

白い農機として知られるスガノ農機(株)は、輸出アクセスを考えて工場を茨城県に移設しましたが、発祥の地・上富良野町に土の館を整備し、無料開放しています。ある意味、CSR の一つと考えられます。

創始者およびその後を受け継いだ菅野一族の生き方を実感できた気がしました。



道内各地のモノリス(土壌標本)の展示



1世紀前に輸入された蒸気トラクターの前で記念撮影

■ ふらのワイン工場&カンパーナ六花亭

研修の締め、富良野市の北部のぶどう畑の中に位置する両施設を約 1 時間視察見学しました。ワインの生産および熟成工程を学び、味の違いも体験して帰路につきました。



ワインと熟成樽



ぶどう畑の中のカンパーナ
(鐘を意味するイタリア語)